

美保飛行場周辺まちづくり基本計画の策定方針について

1. はじめに（基本計画策定の意義）

基本計画は、昨年度策定された「美保飛行場周辺まちづくり構想」での基本理念や基本目標などを継承しつつ、設計・施工に繋げるための具体的な整備内容を決定することである。特に、基本計画の目的は、限られた資源（土地）と限られた財源のなかで最大のパフォーマンスを得て、整備する施設規模の決定と事業費の適正化である。

また、市民参画によるワークショップや市民説明会、パブリックコメント等を踏まえたうえで、市民や議会との合意形成を得ることが重要である。

これらのプロセスを踏まえるためには、基本計画である程度の『カタチ（整備する施設規模の決定と事業費の適正化）』を創り出していくことにより、様々な議論を生みだし、市民とのコンセンサスを得ることになる。

2. 美保飛行場まちづくり計画の策定方針

基本計画策定の意義を踏まえ、基本設計に移行する1つ手前の『カタチ』を生み出すためのプロセスは以下のとおりである。

まちづくり構想で整理された「導入機能」を「整備内容」に変換するためには、具体的な『活動イメージ』をまとめることが重要である。

それぞれの導入機能を「どう使い、どんな効果を発揮させるのか」を具体化することが、効果的で有効利用される施設整備実現に繋がる。

「導入機能」から具体的活動内容を整理し、その活動の受け皿としての「整備内容」に変換する作業を十分に実施しないと、『利用されない・利用しにくい施設』をつくることになり、維持管理の負担も含め、将来に向けて「負の施設」を作る危険性がある。

そのため、まちづくり構想で提案された「導入機能」の重要性と優先性および機能連携を整理し、実現性と有効性の高い整備計画（施設内容）の立案を実施する。

最後に、整備内容について、機能の統合による複合化を実施しつつ、優先順位を決定することにより、限られた資源や財源を踏まえた基本計画を立案する。